

かたらんね 子ども会会員の減少問題を考えよう

～ みんなでワークショップ ～



子ども会を商店に見立て、この商店の売りは何か？
この商店がどうすれば繁盛するか？ ファシリテーターの
おもしろい発想で、部会が始まりました。

「子ども会の魅力アップ・参加したい組織にするための第一歩」との思いで「会員減少の原因は何か」「子ども会の魅力の必要性は何か」をテーマに行われた事前アンケート調査にも様々な意見が寄せられていました。この場で、アンケート結果の具体的な説明はありませんでしたが、参加者それぞれが、納得するような内容であったと思います。

グループに分かれた私たち6名では、自己紹介を兼ねて活動紹介も行いました。
以下、印象に残った内容です。

- ・食育に力を入れている。6年生がお米作りをしている。
- ・子ども会活動で、大人があきらめてはいけなかったことがある。
- ・活動がマンネリ化している。大人も失敗することも多いが、その失敗がとても役に立ったことがある。
- ・子どもは集まらないが、大人のつながりが増えている。そのことによって中学生が増えている。嬉しかった。
- ・子ども食堂を通して、保護者を巻き込むのが良いと思った。

熊本は「子ども会大会」を紹介しました。子どもたちが目を輝かせて楽しんでいること。育成者も保護者も子どもたちの姿を見て笑顔になっていること。
また、事務局では「子ども会活動紹介」の冊子を発行し、役立てていることも合わせて紹介しました。その後、大きな人数でのグループ分けがあり、その中でも様々な意見が出ました。

- ・今の子どもたちが「子ども会」をどう思っているのか。子どもたちの意見を聞くことから始めたい。
- ・二世交代、三世交代をやっている。
- ・単位子ども会で加入できなければ、個人で参加できるようにしてはどうか。
- ・大人たちが喜び、楽しむのが一番良いのではないか。
- ・情報交換は大事だと思う。

等々

子ども会を商店に見立て、この商店の売りは何か？ この商店がどうすれば繁盛するか？・・・の答えは明確には出ませんでした。この分科会で地域性が異なる参加者と共に「子ども会会員の減少問題」を考え、語り合えたことはたいへん有意義だったと思います。やはり、子ども会活動は今の時代だからこそ大切ではないかと、改めて思わされました。

山田はる美（熊本市子協 副会長）